

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第331回

セレス小林

の名言

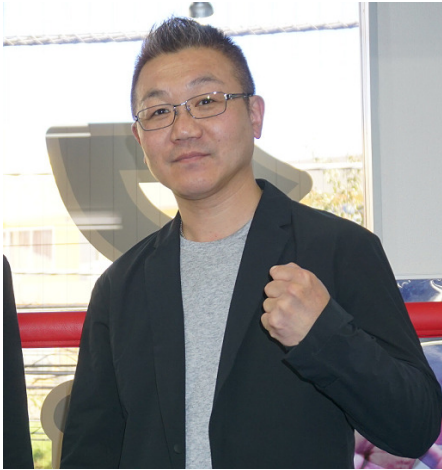
発行：入試広報室

発行日：令和4年12月9日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉

## 「誤審」は神様がオレに 与えた試練なんだろうな。



セレス小林は、日本の元プロボクサー。茨城県岩井市出身。茨城県立岩井西高等学校卒。元WBA世界スーパーフライ級王者。左ボクサーファイター。リングネームの「セレス」は自身が現役時代に勤務していた冠婚葬祭会社の結婚式場の名前から取った。

## Column

スポーツに取り組んできた中で私も何度か試合中に誤審だと感じた経験があります。みなさんの中にもいるかもしれません。審判に対するリスペクトやスポーツマンシップという観点から審判が下したジャッジに素直に従うことは競技を行う上での『心得』と思っています。しかし、審判のジャッジひとつで試合の流れや得点、試合結果を左右すると言っても過言ではありません。

近年、テニスやバレーボールなどではライン際のジャッジやボール・ネットタッチなどの微妙な判定に対して画像による解析要求ができ、それによって審判の最初のジャッジが覆ることがあります。私の経験上、ジャッジによって自分（自チーム）が不利・有利になることはほぼ半々ですので『お互い様』と受け止めることもできますが、セレス小林さんの舞台は格闘技の世界です。ジャッジが覆ったとしても、その時に選手生命を左右するようなダメージを受けてしまうことも、それによって勝敗が左右された場合はプロアスリートとして非常に重要な活動環境を失うことなども十分に考えられるため、今回の言葉を知った時に“さすがに納得できない時もあるのではないか？”という考えが浮かびましたが、きっと『試合は選手だけではなく審判や運営や観客たち全員で作るものだ』という気持ちがセレス小林さんにはあったのでしょうか。だからこそ“一歩間違えれば”という非常にシビアな問題であっても“試練”と受け止められるのだと感じ、そのメンタリティに『さすが世界王者になる人だな』と感動しました。

自分にとって都合の悪いことが起こった時、ついついモチベーションが下がります。『あの出来事のせいで自分はやる気が無くなったんだ』と誰かのせいにしたくなります。しかし、それで体が好転したということはありませんよね？理由はどうあれモチベーションを下げるという選択を最終的にしたのは紛れもない自分自身なのです。もちろんすぐに気持ちを切り替えることは難しいと思います。ただ、今回の言葉のように“試練”と受け止めることで少しでもリスタートのタイミングを早めることはできるのではないのでしょうか。もうすぐ令和4年も終わります。今年の落ち込みは今年のうちに切り替えてスッキリと来年を迎えたいものですね。